

(6) 2016年(平成28年) 11月23日(水曜日)

サンクスギビング(収穫感謝祭)はイギリスからアメリカ大陸に渡ったピュリタン(清教徒)たちが一年の収穫を神に感謝する日として始まったようです。その影響もあつてかアメリカではキリスト教の信者でなくてもこの日に「感謝すべきこと」を思い起こす人も多くいるような気がします。

「何ももらえない感謝祭の後、クリスマスとお正月(お年玉)があることに感謝です」と言つて父親に大変叱られたことをいまだに覚えていま

とです。いよいよ徴兵のため日本から韓国に戻りました。中学校の頃からの友人たちが、再会して間もない私のために(入隊することに對す

ポジティブなことも言つてほしいと言ふと、しばらく間をおいてから、一人の友人が言いました。「入隊のタイミングとしては今がちょうどいい、夏だろ

う? 冬に入隊して二等兵をやってみろ、それこそ凍え死んでもおかしくないぞ」私以外全員がうなずきました。(幸運にも)夏に入隊し

苦しかった基礎訓練をどうにか終え、今度は俗に『人間以下』呼ばわりされていた最低階級の「二等兵」として、不安で戦々恐々としていたその秋、軍属教会に行くことが許され、初めて出席したのが収穫感謝祭の礼拝でした。礼拝後、牧師先生が誘つてくださった教会の皆さんが用意してくださつた感謝祭デイナーのテーブルについた私は、自ら手を挙げて感謝すべき数々のことを述べました。試練の中にあつてこそ本当の感謝を見いだすことができること、自分が生きることが赦され生かされていること、息子が与えられたことを神に感謝し続けてくれたる両親への感謝などでした。今までで最も貧しく質素なこの感謝祭が、私にとつては最も感謝に溢れた感謝祭として今も心に刻まれています。

南加キリスト教会連合 私のサンクスギビング

キム・ホンソン

韓国のクリスチャンの家庭に生まれた私は、幼い頃から毎年サンクスギビングのデイナーの時に何か一つ感謝することを言わないといけないルールがあつて、嫌で仕方なかつた思ひ出があります。あの時は、何も他に思ひつかず

す。その後、宣教師として派遣された父と母に連れられて日本に行つた後も、私が成人するまでこの「感謝祭の習慣」は続きました。

大学を卒業した翌年のこの

大学を卒業した翌年のこの

(CTKルーテル教会牧師)